

腰痛

転倒



医療法人 倚山会
田岡病院

リハビリテーション科



士長 立石 PT

患者さんに対する転倒対策が職員の転倒対策にも直結

- 雨の日のスリップ予防で清掃に対応依頼 ⇨ 職員の転倒対策としても機能している

院内で腰痛による労災が発生し腰痛対策を開始

- 委員として参加していた院内の衛生委員会にて、腰痛による労災の報告 ⇨ 腰痛予防対策を開始
- 併設の訪問看護等で在宅系の業務を経験
⇨ 看護・介護職員の負担に関心を持ち、関連の研修会等に参加するようになった

実施内容

① 転倒対策

履き物の統一（スニーカー）
床面の滑りやすい所など環境面への対策の要望

② 腰痛対策

希望職員に対する腰痛予防対策教室

実施効果や工夫している点

環境面：履き物の統一や床面の整備を実施

① 転倒対策

1. 雨の日にスリップ予防のため床の清掃を依頼
2. 履き物をスニーカーに統一
3. 床面の滑りやすいところに関して、対策を申し出ている



身体面：腰痛予防教室により、参加者の意識改革に成功

② 腰痛対策

コンディションの調整目的に体操教室を実施

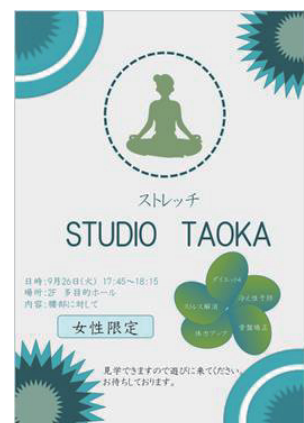
スタジオ田岡：

- ・理学療法士による腰痛予防対策教室
- ・就業時間後に 15～20 分程度
- ・理学療法士 3 名に対して参加者 5～6 名
(医師の参加率が高い)

実施
により

作業方法や環境設定に対する対策に
意識が向くようになった

+ 人材確保のためのアピールポイントにもなった



今後の課題

時間外に行っているスタッフの取り組みを、業務時間内に対応可能となるようにしたい。介入による効果判定も行ってはどうかという提案もある。リハスタッフ間にも医療安全や衛生委員会の情報に対する関心の程度にばらつきがある。医療安全に関わる委員会等に理学療法士が中核的なメンバーとして参画していくべきと考える。